

中一国語

長文読解入門 第三回 要約①

講師：羽場 雅希

◆ 今日の授業で学ぶこと

- ・ 一文を要約するポイント

◆ 一文を要約するポイント

要約＝重要な点を短くまとめること。

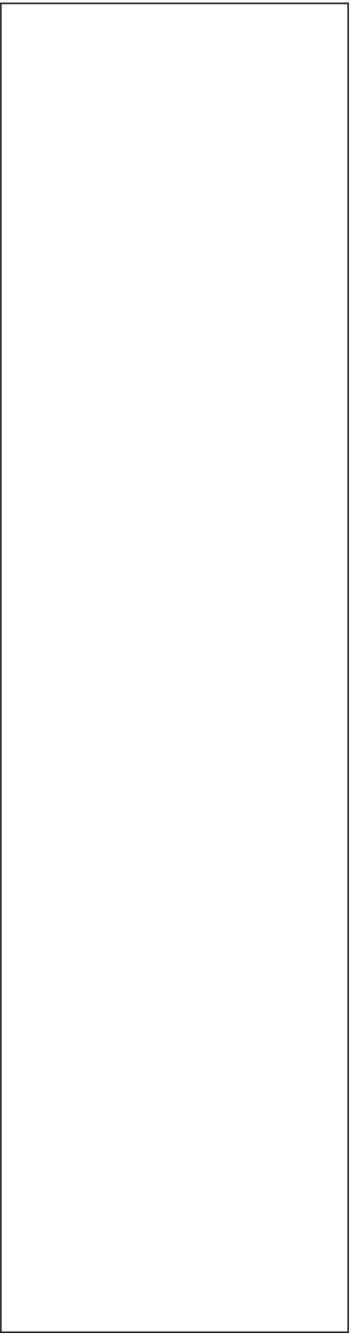
- ① 主語（主部）と述語（述部）を見抜く^ぬ。
- ② その文で言いたいことを伝えるために必要な要素を付け加える。

※ 具体例は省く／まとめる。

【第一問】

次の文を要約しなさい。

人に見られていていると思うと簡単な漢字でも書き間違えてしまう^{ちが}、人に聴かれて^きいると思うといつもは暗譜^{あんぷ}しているピアノ曲でも弾き間違えてしまう^ひというように、人間と
いうものは他者の視線を感じると、普段^ふは無意識に上手にやっているものごとともスムーズに行えなくなってしまう。



【第二問】

次の文章を読んで、傍線部①～⑤を要約しなさい。

1 自立ということをやわたしたちの社会は、さまざまなことを自分でできること、(自分の身体も含めて) 生きるに必要な多くのものを意のままにできることとして了解してきたが、何かを意のままにできるといことが自立なのではない。①そうではなくて、意のままにならないということの受容、そういう「不自由」の経験をおのれの内に深く湛えつつ、何かを意のままにするという脅迫から下りることを自然に受けれるようにするのが、本当の自立なのだろう。

2 ②「自立」といえば、ひとはすぐに、他人の力を借りずに独力で生きられることと、③いうふう^いに考える。④が、社会的サーヴィス^{せい}がいく^くら充実^{じゅう}していても、じっさいに動いてくれるのは機械ではなく他のひとだ。

④ひとがひとりのできることはきわめて限られていて、食堂で何かを食べるときには、調理するひと、配膳はいぜんするひとが要るし、音楽ひたに浸りたいときには、曲を作るひと、演奏するひと、録音するひと、CDを売るひとが要る。からだが不自由になったら、介かい助してくれるひとが要る。⑤人間はそういう無数の他者に支えられて生きているのであって、ひとりのできることなどたかが知れている。

わしだきよかず
(鷺田清一)

「わかりやすいはわかりにくい?」より)

⑤
||

④
||

③
||

②
||

①
||